

新海小学校 校長会報

発行者 新海小学校校長会広報部

発行所 新海小学校校長会広報部
新海小中学校区公民館1F 3-30
〒951-8501 025-296-2221
〒951-8501 025-296-6000
E-mail: shap@shiga-net.or.jp
印刷所 株式会社 文光堂



信頼を伝える

新海小学校校長会 副会長

阿部 勉

次期教育振興基本計画のコンセプトの一つに、「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」があります。子どもたちのウェルビーイングを高めるためには、教師のウェルビーイングを確保することが必要とされています。「自己肯定感」「生きがいや働きがい」等、教師のウェルビーイングを高めるために、校長として何が出来るでしょうか。

新採用のころ、ベテランの先生が、次のような話をしてくださいました。「阿部さん、ハンカチのどこか一点を持ち上げれば、全てが持ち上がるでしょ。子どももよいところを見付けて、それを伸ばしていくば、その子どもがぐんぐん伸びていくからね。子どものよいところを伸ばしてあげてね。」あの先生の言葉が、それ以後の自分の教育観の土台となりましたが、今、校長として学校運営を進めるうえで、考え方の基盤となっています。

学校には、それぞれ個性をもった職員がいます。一人一人の職員の個性（よさ）が十分に発揮されることで、学校は活性化し、よくなっていきます。校長は、職員のよさを認め、十分発揮されるように支援することが大切です。ただし、職員と校長との間に信頼関係がなければ、そのよさが伸びていくことはありません。校長が職員に信頼されているかどうかは、職員に聞かなければ分かりません。だから、校長は、まず職員を信頼し、それをどう伝えるかを考え実行したいものです。私は、校舎を巡ったり、学級・学年だよりを読んだり、あるいは職員室でボーッとしたりしながら、職員の動きを捉え、「阿部がどう言っています」等の感謝の言葉に笑顔を送って伝えるようにしています。職員に信頼していることを伝え、職員のウェルビーイングを高めたいと思います。

令和5年度

第一回 県小評議員会（報告）

日時 六月十五日（水）十四時～十六時十五分
会場 上越市（高陽荘）

一 開会の挨拶

山田会長

学校現場には課題が山積しているが、「校長会としてできること」と「一校の校長としてできること」で解決につなげていきたい。県小学校長会としても、できることに全力を尽くす。各校において、新型ウイルスが五類に引き下げられた今、真に必要な教育活動を見極めるとともに、校長の権限を上手に使って、授業時数の調整等、ゆとりある学校経営に努めてほしい。

二 議長選出

阿賀野 評議員

三 報告

会務報告、全連小・開プロ関係

四 議案

(一) 各都府県基本計画について

1 対策部

「各市町村における教育関連予算等の拡充」に係る調査・分析・情報提供を行う。六月中旬に回答回収。九月末に「資料編」発送の予定。

2 福利部

三委員会により「給与・処遇、再任用・再就職、福利厚生」に関する調査研究活動、要望活動、情報提供を行う。七月中旬に回答を回収し、分

3 研修部

教育課程、生徒指導、同和教育の三委員会による「調査研究活動・研修活動」と三地区に分かれての「校長会研究集の実施」により、校長の資質・指導力の向上を図っていく。

4 広報部

会員の連絡と学校運営の改善充実に資するよう、「各都府県校長会の活動や当面の課題に関する情報提供」を行っている。

5 連絡

(一) 全連小東京大会、今後の開プロ・全連小大会について
(二) 令和七年度開プロ新潟大会、令和六年度フレ大会について
(三) 令和五年度「要望書」について

六 開会の挨拶

本日集まった皆さんは、市町村をリードしていく立場にある校長である。同時に、一校の校長として、笑顔で明るく親やかにゆったりと構え、元氣な学校をつくってほしい。

全連小・関プロ東京大会 提案発表

学校や教職員の実態を生かした組織的な研修の推進

一 趣 旨

本研究では、「学力検査」や「学習指導改善調査」から明らかにした学校の課題に対して、校長が行った指導によってどのような成果が得られたのかを検討していく。

二 研究の概要

(一) 児童の実態

1 「学力検査」の結果から、国語、算数ともに「主観的に取り組む態度」の数値が低いことが明らかにした。

2 「学習指導改善調査」の結果から、

(一) 問題文や資料の中から必要な情報を適切に読み取る力、「物事の関係性を理解する力」、「段落を適切に使い、条件に合わせて分かったりやすく書く力」を付ける必要があるということが分かった。

(二) 校長としての運営意識の現況

1 教職員の強みや意欲を生かすことを大切にしたい。そこで授業研究は教員や分野を指定せず、得意分野で取り組むことを指導した。

2 長岡市の研修制度「教員サポート

ト練成塾」を積極的に活用することにした。外部の研修制度を利用することで、若手教職員の指導力向上を目指した。

3 日常的な指導の共有を図った。

「学習指導改善調査」から得られた課題を解決するためには、日頃からの積み重ねが大事であると考えた。そこで、誰にとっても必要で、学習指導に欠かせないポイントを校内で共有し、全職員が進む指導できる方法を確立することを提案した。

(二) 課題解決のための実践例

1 教職員の強みや意欲を生かした

例として、二年生の生活科の授業を挙げる。担任が絵本好きということを生かし、自分の成長記録を絵本仕立てで記録していった。毎週、行事や活動を経るごとに成長記録を既していき、結果として児童が主体的に文章を書く力が付いた実践である。

2 「教員サポート練成塾」の活用

については、教職員面談で指導に

迷いがあると話しした教職五年目の職員に指導を勧めた。

受講者は指導者からマンツーマンで指導を受けることができ、遠隔授業の指導方法や学級経営について学ぶことができた。約半年間で、教職員の指導力が向上したことはもちろん、児童も積極的に対応し、深く学ぶことができるようになった。この実践を参観した若手からは、「自分も頑張りたい」との声が続いた。他の教職員の研修意欲向上にもつながった。

3 日常的な指導の共有と徹底について、三つの例を挙げる。

(1) 必要な情報に印を付けながら読む。
(2) 変化を身に付けるために実際に測量する。
(3) 独自の作文シートを活用する。
(全校の取組)

(全校の取組)

これらの取組はどの学校や学級でも行っていることであろう。全校で徹底して行うことに意味があると考えた。

(二) 児童の実態の変化

取組後の「学力検査」の結果、国語、算数ともに、「主観的に取り組む態度」の数値が全国平均を超えるまでとなった。

また、日頃の観察から、児童が、

日常の取組に粘り強く挑戦する姿が見られた。低学年でも、ある程度の分量の作文が段落を分けて書けるようになったりしており、取組に効果があったと見える。

三 まとめ

1 校長の視点から見た成果

1 教職員の強みや意欲が授業を分かちやすくなり、教員も意欲的に取り組むようになった。校長には日々の授業観察を通して、効果的な手法について校内で共有できる環境を整備するマネジメント力が必要である。

2 外部の研修制度の活用で、個人が成長できた。また、学校全体に還元することにより、組織としても成長することができた。校長は面談等を通して、必要な教職員に適切な研修の機会を与え、組織に還元する役割を果たさなければならぬ。

3 日常的な指導の実践共有と徹底により、誰もが指導力をつけることができ、即、学力向上の成果としても表れた。校長には必要に応じてリーディングシップを発揮することが大切である。

(三) 今後の課題

これからはますます若手教職員が増える。働き方改革を進めながら授業改善を行うには、さらに研修の効率化を図るアイデアが必要である。



特別寄稿



校長先生に望む

四つのこと

小千谷市教育長

松井 周之輔

はじめに

校長先生方におかれましては、様々な教育課題が山積する中、優れた識見とリーダーシップを発揮されて誠心誠意取り組んでおられますことに、心より敬意を表し感謝申し上げます。

私自身、教員生活三十六年のうち、小学校十四年、中学校十年（管理職）、教育行政十二年（生涯学習・社会教育事務局に四ヶ所）その後、教育長として九年目に入りました。

既にまして、校長先生の肩に懸っている重圧や教員指導への気配分、そして、子どもの成長に携わることのできる喜びや感動も共感できます。

そうした経験を通して、教壇に就いたように申し訳ございませんが、校長先生に望む四つのことを記します。

一 言葉を磨き生かすこと

「相手を怖らせるのも言葉、相手を迷わせるのも言葉」との格言があります。信頼の「信」の字も人偏に言と書くように、人は言葉によって信頼を生まれば、言葉によって信頼をも失く

してしまいます。ましてや、教育に携わる者は、これを自覚していくことが肝要であると思います。

校長先生は、日頃から教職員を指導し、子どもと接しています。それゆえに、認めたり、励ましたり、褒めたりすることで、教職員や子どもが勇気や希望、元気をもち得ると思うのです。

校長先生の発する言葉は、学校の中で、誰よりも人の心を大きく動かす力をもっています。そのことを自覚し一言言葉を磨いて、教職員や子どもに接していくってほしいと願っています。

二 明るく前向きでいること

かつて、鈴木健二アナウンサーが書いた「氣くばりのすすめ」がベストセラーになったことがありました。

その中で「赤ん坊や幼い子、あるいは小学生と目が合った時、自然に優しく微笑むことができた氣配りを身に付けることが肝心」、「英雄や偉人に共通していることは、どんなに落ちても希望を捨てない高天来主義、日常の雑事を片付ける能力に誇っている」とあり

ました。

子どもの見る眼や感性は鋭いです。

校長先生は、学校の顔と云われることもありです。

総じて言えば、特に小学校の場合は校長先生の明るさや優しさ、前向きな姿こそ、子どもにとって良い影響を与え、と思えます。

三 腹を括ること

自分自身が初めて教頭になった時は、初めての中学校勤務で、生徒指導上の問題が多発し、県内でもトップクラスに事故報告を上げ、警察にもお世話になる状況でした。小学校しか知らない私にとっては、厳しく辛い状況が続き、出勤拒否をしてしまいそうなのにも

かられました。その時の校長先生が生徒指導のスペシャリストで、私に対して時勢、「責任は私が負うから大丈夫、教頭先生、心配しなさんな」と言ってくださり、救われる思いでした。

その経験を通して、自分が校長になった時に、すべての責任を自分が負おうと覚悟を決める、つまり腹を括りましょう。自然なことなのです。それが校長としての務めであると思っています。

私自身、腹を括ったお陰で、その後、何があってもあまりビビビしいで済み、精神的にも楽でした。

現在でも、小千谷市の校長先生方には、「最終責任は、私が取りますので

遠慮せず学校経営にあたってくださ

い」とお話しています。

四 健康を保つこと

最後は何といっても、健康に留意し心身ともに健康を保っていたいただきたいということです。

今、教職員の働き方改革が叫ばれています。校長先生が、率先してワークライフバランスを意識し、心身ともに健康で学校経営にあたってください。

自分の経験として、趣味が多かったことも幸いしていましたが、私の趣味はどれも辛いものはありませんが、囲碁・将棋・民謡・小品・ギター・歴史関係のテレビ鑑賞等と数多く、趣味によって気分転換が図れ、心の健康に有効でありました。

忙しい中にも、趣味を楽しみ、大いに気分転換してほしいと思います。

五 むすびに

校長先生に望む四つのことを記しましたが、このことは、私自身まだまだ知らない面もあり、今でも私自身が取り組んでいることでもあります。

校長先生方には、子どもの幸せと無限の可能性を伸ばすために、併せて新潟県教育の発展のために、益々の健康とご活躍を期待し、自分の願いを雅楽な発歌にして結びとします。

「たくましく心豊かに子どもをの

び咲かせよう」と



世界ジオパークの地で 一枚岩の校長会を築く

糸魚川市小学校長会

糸魚川市は、新潟県の最西端に位置し、南は長野県、西は富山県と接している。日本海から北アルプスまで広がる豊かな自然、変化に富んだ地形、そして、貴重な鉱物や地質等に恵まれ、二〇〇九年に世界ジオパークに認定された。市では「ひととみかやぐく日本一の子ども」の育成を目指し、〇歳から十八歳までの「子ども一貫教育」を推進している。

一 教育を目標とする

糸魚川市小学校長会は、昨年度水浦小学校の統合があり、今年度は一名減の十三名の会員で構成されている。年間十一回の定例会を予定しており、会では、主に各種会議の打合せや報告、各校の行事等の情報交換、研修を行っている。昨年度から会長の希望もあり、学校運営上の固い事等について情報を提供し合い、全体で支え合う温かな雰囲気、会の運営を行っている。中でも危機管理や生徒指導上の課題について、対応策等の情報共有を行うことにより、市内各校が統一した取組や対応策を即時に講じることができ、成果につながっている。

また、市教委と市校長会が合同で「教育懇談会」を年二回開催している。

その年々の教育情勢を反映させたテーマを設けて、市長や教育長、教育委員だけでなく、幼保小中高等学校の学校運営協議会委員やPTAの代表も参加する中で、講師による講演を聴いたり、グループ討議を行ったりしている。今年度の一回目は、「コロナ禍後の子どもたちの生活リズムと野外活動の大切さ」について、国立妙高青少年自然の家、の所長の講演後、グループ討議を行っている。今後の学校の取組の方向性について様々な立場の方の意見を情報共有する貴重な場となった。

二 研修を深める

例年、夏季休業中に校長会の親睦を深めることを主目的として研修旅行等を行っている。ここ数年はコロナ禍の影響があり、市内の巡回研修を行っている。今年度は、大系館を利用して子育て方面のジオエリアやフロンティアダナミュージアムの見学等を予定している。冒頭に述べたとおり、世界ジオパークの糸魚川市では、地域を学ぶ学習として「ジオパーク学習」が計画的に推進されている。研修を機に、地域を学び、地域の特色を生かし、地域とともに歩む学校づくりを推進している。

学校紹介

地域と一体となった 特色ある教育活動の展開

弥彦村立弥彦小学校

当校区には、地域の方が「おやひこ」と慕っている県内屈指の観光地、鶴後一宮「彌彦神社」がある。悠々の歴史をもつ彌彦神社を中心に伝統文化が息づく地で、全校児童三五八名は、雄大な弥彦山を眺めながら元気に活動をしている。

一 弥彦燈籠神事への参加

重要無形民俗文化財に指定され、鶴後一宮千年大祭である「弥彦燈籠神事」は、弥彦に夏の訪れを告げる一大祭りである。神輿の行列に四季の大きな造花を飾り立てた大小の燈籠が夜の弥彦に連なり、幻想的で荘厳な祭りである。

このふるさとの象徴である祭りへ、南校は創立以来参加してきた。この活動をより一層充実させ、持続可能な活動とするために数年前から学校行事として恒例化し、中学校と合同参加している。子どもたちは、燈籠祭りの由来、意味を地域の方から聞き、親子で燈籠を作る活動を行い、祭り当日は、地域の方と一緒に燈籠を担いで地域を練り歩く。この活動を全面的に支えているのが、彌彦神社氏子青年会、観光協会である。地域の強い、学校としての考えを三者で相談し、子どもたちにとっ

て心に残る祭りになりたいという想いを共有することで、地域と一体となったダイナミックな活動を展開している。

二 弥彦朝霧祭りへの参加

彌彦神社境内で開催される「弥彦朝まつり」は、商品品目数において全国統一の規模を誇る新花火大会である。この新祭りに向け、当校の子どもたちが弥彦村祭り作りの会の全力協力を得て、夏から丹精込めて菊を育てている。展覧会当日は、大輪の菊を出品し、観光客に菊の宣伝活動を行っている。

三 コミュニティ・スクールとして

地域と一体となった特色ある活動が、地域・保護者の学校への理解と関心の高まりにつながり、五年目を迎える弥彦村コミュニティ・スクールの活動を後押しした。その結果、学校支援ボランティアの登録者数が八〇名を超え、昨年度、校内に地域の方と子どもたちが交流する部屋「みんなのいばし」が開設された。

県小学校長会
HPへアクセス



学校経営に役立つ
情報満載